

## 平成26年度 附属学校研究支援経費による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	皆川慎太郎 ・ 附属札幌中学校 教諭
研究期間	平成26年4月～平成27年3月
プロジェクトの名称	研究成果の地域還元プロジェクト
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付すこと	○皆川慎太郎・札幌校附属中学校・教諭 他 札幌校附属中教諭16名 渡部 基・札幌校・教授
成 果 の 概 要	
<p><b>1 教育現場への研究成果の還元</b></p> <p>(1) 授業検討に関する研究会議の開催 教科調査官と連携を図るとともに、札幌市の教員に働き掛け組織づくりを行い、数回研究会議を開催した。研究会議においては、授業案の検討を行うことで本校の研究に関する理解を深めてもらうとともに、日々の授業づくりにおける若い教員の悩みについて相談にのるなどといったことを行った。そのため、本校研究をより身近に感じながら理解を深めてもらうことができた。</p> <p>(2) 公開学習会の開催 社会、理科、音楽、保健体育、道徳、特別活動、総合的な学習の時間について、合計7回の公開学習会を11月から2月にかけて開催した。授業づくりに協力してもらった札幌市の教員、道内他附属、国研の研究指定を受けていた他校の教員などに参会してもらった。また、国研教科調査官に依頼し、本校研究とこれからの教育に求められることなどを関連付けた講演をしてもらった。以上のことにより、本校研究をより分かりやすく発信することができた。</p> <p><b>2 思考力・判断力・表現力等の育成の観点の明確化</b> 思考力・判断力・表現力等の育成などといった国研の指定する研究内容と本校研究との関連を明確にしながら研究を進めた。それにより、本校研究の一般化を図るとともに、本校研究内容の充実を図ることができた。 具体的な内容としては、思考力・判断力・表現力が育まれていることを教師及び生徒自身が実感できるような手だての充実を図ることができた。思考力や判断力の視覚化を図るためのピラミッドストラクチャーなどのツールやICT機器の活用方法や活用するタイミングなどを明らかにすることができた。</p>	
成 果 の 公 表 の 状 況	
予定なし	
教育現場で活用可能な分野等	
各教科や領域において、生徒がより主体的に学ぶための方法について、現職教員が研修を行う際に利用可能である。	
配付可能な資料の有無	特になし
ダウンロード可能なドキュメント	特になし
問い合わせ先	代表者：皆川慎太郎 電 話：011-778-0481 FAX : 011-778-0483 mail : sap-futyu@s.hokkyodai.ac.jp